



TITLE:

<雑録>劉岳申の申齋集及び文丞相傳に就いて

AUTHOR(S):

田中, 整治

CITATION:

田中, 整治. <雑録>劉岳申の申齋集及び文丞相傳に就いて. 東洋史研究 1941, 6(3): 244-244

ISSUE DATE:

1941-05-15

URL:

<https://doi.org/10.14989/147096>

RIGHT:

等にはない。最も重要視されるのが chos-byun であり、それは bDe-ge-gi-bstan-pahi dam-pa-li-chos ji-lar byuh-bah-i-istui brad-pa なのである。本書の価値はかゝる點より出發して更めて見なければならぬであらう。支那の研究には支那の資料が使はれて居る。而してそれは支那風の讀み方に従ふ事が要請されて居る。同様にラマ教研究には西藏語の文獻が用ひられそれ自身の讀み方が行はれなければならない。橋本氏の研究はかゝる意味に於ても甚だ正統的な行き方であり、ラマ教研

究に偉大なる第一歩を踏み出されたものと云つてよい。氏の極めてつましやかな記述にも似ず本書は今後斯學の方面に於て燦然たる光を放つであらう。

以上長々と雜言に連ぬるに妄評を以てしたが、意とする所は本書の價值と橋本氏の偉業を紹介したいが爲であつた。後學禮を失した點も少くない。氏の寛恕を請ふ次第である。

〔佐藤長〕

劉岳申の申齋集及び 文丞相傳に就いて

劉岳申は吉水の人（江西省吉水縣）、字を高仲、號を申齋といひ、その生卒年代は之を明瞭にし得ないが、元史儒學傳の彼の附傳に「其文學與〔劉〕誦（一二六八一三五〇）齊名。」とあり、江西通志に「甚爲吳澄（一二四七一—一三三一）虞集（一二七二—一三四八）所推重。」と見えるにより、その生存年代を大體察知し得よう。彼は吳澄の推薦により、遼陽儒學副提舉に召されたが就任せず、後泰州州判を授けられて致仕した人であり。その撰述に係るものは

左に簡述する 申齋集十五卷・文丞相傳（文信國公傳）一卷の外に至正重修廟學記がある。

申齋集は、廬陵の人である門人蕭洵の編輯する所で、茶陵州の人李祁が序文を爲り、元季嘗て剗剗に付せられたが、兵燹を経ること久しく元詩選には收載せられてゐない。江西通志も亦岳申の文集は今已に傳はらずと謂つてゐるが今は鈔本十卷が僅かに存してゐるので稀覯本といへるのである。岳申の文は韓愈蘇軾を宗としてゐる故に「其氣骨道上。無南宋卑冗之習」であり豫章人物志には「其文辭簡約峻潔」との評を下してゐるが、殆ど虚語ではない。

文集中の碑誌の作や居什の四五に至つては尤も史實を考證するに根據となるものであり、文丞相傳は宋史のそれに比して詳細を極めてゐる。（四庫提要）次に文丞相傳に就いていふと、これは元の順帝の元統元年（一三三三）丞相の孫富が梓行し湯陰の人許有壬之が序を爲り、明初樂平の人夏伯時亦版に鈔んでより、該傳は天下に盛行したのである。明初郷土の後輩胡度が該傳を批評して「大要其去丞相未遠。郷邦遺老猶有存者。得於見聞爲多。又必參諸丞相年譜及指南錄諸編。故事蹟覈實。可徵。」と述べてゐる。（文山全集）

〔田中整治〕